「CFD の自動車アプリケーション」の発行に際して

小林 敏雄*，谷口 伸行**，加藤 千幸***

*東京大学生産技術研究所
**東京大学情報基盤センター
***東京大学生産技術研究所

*Toshio Kobayashi
**Nobuyuki Taniguchi
***Chisachi Kato
*Institute of Industrial Science, Univ. of Tokyo
**Information Technology Center, Univ. of Tokyo
***Institute of Industrial Science, Univ. of Tokyo

*E-mail:kobaya@iis.u-tokyo.ac.jp
**E-mail:ntani@iis.u-tokyo.ac.jp
***E-mail:ckato@iis.u-tokyo.ac.jp

CFD（流れの数値シミュレーション）は、この数年のうちに急速に実用化され、工学設計に適用されるようになりました。特に、わが国においては、自動車分野における普及が目覚しいものがあります。わが国の自動車産業界は、環境規制や燃費向上のみならず、乗員の快適性にも厳しいユーザのニーズに高い技術力で応えることで、グローバリズムの波を乗り超えつつある起因力は、工学設計・製造の様々な工程における新機軸が先行的にかつ実践的に試みられてきたことにあると考えます。CAE 技術の導入は典型的な例といえ、その一環として、CFD の自動車分野へのアプリケーションが精力的に進められています。

しかし、これらの技術開発や研究の成果は、自動車の設計・製造に強く結びついており、また、この分野が厳しい技術競争にあることもあって、他業種、他分野へ紹介されることは比較的少ないように思われます。研究開発におけるグローバリズムは、単に世界標準に従うことだけではなく、工学・理学の広い分野にまたがって知識を共にし、評価しあう共通の場を提供することにあると思います。今回、自動車工学に経験の深い著者らに、かなり厳しい評価をも交えた、率直な意見をご披露、ご提起いただきました。広く理工学の様々な分野、立場の方々より賛否の意見を頂戴することが、CFD に関するよりグローバルな展開につながるものと期待します。

©日本数値流体力学会